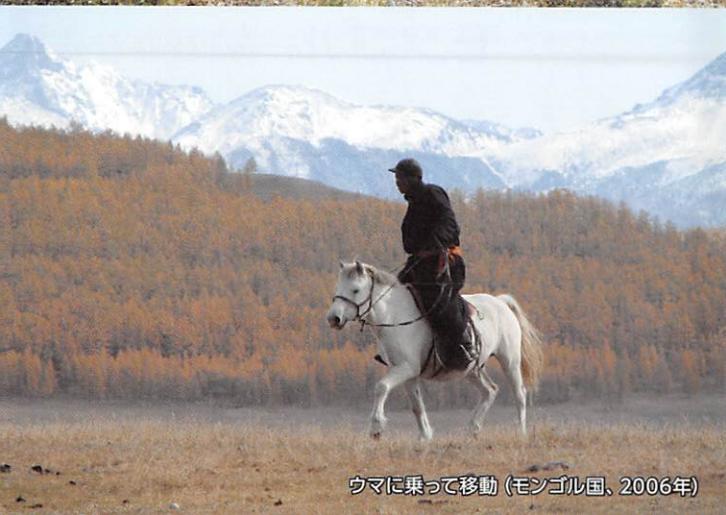




極寒の冬に放牧されるウマ（ロシア／サハ共和国、2013年）



足がせを付けたウマ（モンゴル国、2007年）



ウマに乗って移動（モンゴル国、2006年）



馬頭琴（頭部）【モンゴル】（当館蔵）

観覧料 ()内は10名以上の団体料金

	特別展	特別展+常設展
一般	450(300)円	800(740)円
65歳以上	300円	300円
高大生	200(160)円	320円
小中学生	無料	無料

◆北海道立北方民族博物館（指定管理者：一般財団法人北方文化振興協会）
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1（天都山・道立オホーツク公園内）
TEL.0152-45-3888/FAX.0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

◆施設設置者：北海道教育委員会
連絡先：北海道教育厅生涯学習推進局文化財・博物館課（代表TEL.011-231-4111）

ユーラシア北方のウマ牧畜民 カザフ モンゴル サハ

Horse Riders in Northern Eurasia
Kazakh, Mongol, Sakha

カザフの伝統行事「クズコアル」の様子
(モンゴル国、2010年、撮影・提供:西村幹也氏)

2017. 7.15 土 ▶ 10.15 日
<10.2 [月]、10.10 [火] は休館>

開館 9:00~17:00
時間 <10月は9:30~16:30>

会場 北海道立北方民族博物館・特別展示室

主催 北海道立北方民族博物館
協力 国立民族学博物館、北海道大学総合博物館、
NPO法人北方アジア文化交流センターしゃが
廣田千恵子氏、池田カナ子氏

ユーラシア北方のウマ牧畜民

カザフ モンゴル サハ

Horse Riders in Northern Eurasia
Kazakh, Mongol, Sakha



マンモス牙製彫刻
[サハ] (当館蔵)

カザフ、モンゴル、サハといった民族を対象に、ユーラシア大陸のステップ地帯で発展し、シベリアまで広がったウマ牧畜文化について紹介します。

操る

ふだん草原で自由に放牧されているウマを人に馴らし、騎乗や使役に使えるようにするために、さまざまな技術や道具が利用されてきた。

足かせは、ウマの移動を制限するためにはじめに装着する道具である。銜は、ウマの前歯（門歯）と奥歯（臼歯）の間の隙間に装着し、ウマを制御するために使われる基本的な馬具のひとつである。

ウマ用足かせ [カザフ] (当館蔵)



銜と面繋
[カザフ] (当館蔵)

乗る

ウマに騎乗することにより、人はそれまでの機動性を手に入れた。初期の段階では、ウマの背に布やフェルトを敷いて乗っていたが、やがてしっかりした木製などの鞍が作られたと考えられる。

鐙は騎乗する人が足を置くために鞍に取り付けて使う道具である。鐙によって、より容易に、安定して騎乗することができるようになった。



くら鞍 [サハ] (当館蔵)



鐙 [モンゴル] (国立民族学博物館蔵)

食べる・飲む



物置にぶら下げる馬肉のソーセージ (モンゴル国 / バヤンウルギー、2007年、撮影・提供: 西村幹也氏)



馬乳酒用杯
[サハ] (当館蔵)



ウマの尾の毛を使った儀礼具
悪霊を追い払う力を持つとされる
[サハ] (当館蔵)

サハ Sakha

「ヤクト」とも呼ばれる。ロシア連邦サハ共和国を中心に暮らすテュルク（トルコ）系の民族。人口は約48万人。10~13世紀にかけてバイカル湖周辺から北上した人びとが、周囲の集団を吸収しながら形成されたと考えられている。ウマ、ウシの牧畜を伝統的な生業とする。



ウマに乗ってヤギを放牧 (モンゴル国、2007年)

モンゴル Mongol



カザフの鷹狩 (モンゴル国、2016年、撮影・提供: 西村幹也氏)

カザフスタンを中心に、中国・新疆ウイグル自治区、ロシア連邦、モンゴル国西部などに暮らす人びと。総人口は1200万人程度と推定される。中央アジアとその周辺に広がるテュルク（トルコ）系民族に含まれる。伝統的には草原（ステップ）地域での牧畜や狩猟を生業とし、遊牧生活を送ってきた。現代まで鷹狩の文化を保持していることでも知られる。



ウマの汗をこそぎ取るためのヘラ
[モンゴル] (当館蔵)

カザフ Kazakh